

2026 年 10 月 9 日

各 位

会 社 名 株式会社FUNDINNO
代表者名 代表取締役CEO 柴原 祐喜
(コード：462A 東証グロース市場)
問合せ先 執行役員コーポレート本部長 高木 崇
(TEL：050-3644-4388)

有償ストック・オプション（新株予約権）の発行に関するお知らせ

当社は、2026 年 10 月 9 日開催の取締役会において、以下のとおり、有償ストック・オプション（新株予約権）を発行することについて決議しましたので、お知らせいたします。なお、本件は新株予約権を引き受ける者に対して公正価格にて有償で発行するものであり、特に有利な条件ではないことから、株主総会の承認を得ることなく実施いたします。また、本新株予約権は付与対象者に対する報酬としてではなく、付与対象者の個別の投資判断に基づき引き受けが行われるものであります。

1. 発行の目的及び理由

本新株予約権は、当社の中長期的な業績拡大及び企業価値の増大において中心的な役割を担う従業員（執行役員）に対し、その貢献意欲を一層高めるとともに、株主の皆様と利益を共有することを目的として発行するものであります。

本新株予約権には、当社の株価、連結営業収益及び連結営業利益に関する権利行使の条件としております。当該条件は、付与対象者の利益を当社の業績及び株主価値の向上と連動させる観点から段階的に設定したものであり、営業収益（40 億円、63 億円及び 90 億円）及び株価（1,000 円、1,500 円及び 2,500 円）の各水準を、それぞれ段階的な行使の条件として定めております。なお、これらの水準は本新株予約権の行使条件として設定したものであり、当社の業績予想や中期経営計画を示すものではありません。また、全ての段階において連結営業利益が黒字であることを行使の前提条件としており、収益を伴わない規模拡大のみでは権利行使ができない設計としております。

なお、本新株予約権がすべて行使された場合に増加する当社普通株式の総数は、発行済株式総数 23,888,101 株に対して約 0.5%に相当します。しかしながら、本新株予約権は、あらかじめ定める業績目標の達成が行使条件とされており、その目標が達成されることは、当社の企業価値・株主価値の向上に資するものと認識しております。このため、本新株予約権の発行は、当社の既存株主の皆様と利益に貢献できるものと認識しており、株式の希薄化への影響は合理的なものであると考えております。

2. 第 17 回新株予約権の概要

(1) 新株予約権の割当ての対象者及びその人数並びに割り当てる新株予約権の数	当社従業員（執行役員） 1 名 1,194 個
(2) 新株予約権の目的である株式の種類及び数	本新株予約権 1 個あたりの目的である株式の数（以下、「付与株式数」という。）は、当社普通株式 100 株とする。 なお、付与株式数は、本新株予約権の割当日後、当社が株式分割（当社普通株式の無償割当てを含む。以下同じ。）または株式併合を行う場合、次の算式により調整されるものとする。ただし、かかる調整は、本新株予約権のうち、当該時点で行使されていない新株予約権の目的である株式の数

	についてのみ行われ、調整の結果生じる1株未満の端数については、これを切り捨てるものとする。 調整後付与株式数＝調整前付与株式数×分割（または併合）の比率 また、本新株予約権の割当日後、当社が合併、会社分割または資本金の額の減少を行う場合その他これらの場合に準じ付与株式数の調整を必要とする場合には、合理的な範囲で、付与株式数は適切に調整されるものとする。
(3) 新株予約権の総数	1,194 個
(4) 新株予約権の払込金額又はその算定方法	本新株予約権1個あたりの発行価額は、1,000 円とする。 なお、当該金額は、第三者評価機関である株式会社プルータス・コンサルティングが、当社の株価情報等を考慮して、一般的なオプション価格算定モデルであるモンテカルロ・シミュレーションによって算出した結果を参考に、当該金額と同額に決定したものであり、当社は、当該金額は有利発行に該当しないと判断している。
(5) 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額及びその1株当たりの金額（行使価額）	本新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、1株あたりの払込金額（以下、「行使価額」という。）に、付与株式数を乗じた金額とする。 行使価額は、金247 円とする。 なお、本新株予約権の割当日後、当社が株式分割または株式併合を行う場合、次の算式により行使価額を調整し、調整による1円未満の端数は切り上げる。 $\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割（または併合）の比率}}$ また、本新株予約権の割当日後、当社が当社普通株式につき時価を下回る価額で新株の発行または自己株式の処分を行う場合（新株予約権の行使に基づく新株の発行及び自己株式の処分並びに株式交換による自己株式の移転の場合を除く。）、次の算式により行使価額を調整し、調整による1円未満の端数は切り上げる。 $\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\frac{\text{新規発行株式数} \times 1 \text{株あたりの払込金額}}{\text{新規発行前の1株あたりの時価}} + \text{既発行株式数}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$ なお、上記算式において「既発行株式数」とは、当社普通株式にかかる発行済株式総数から当社普通株式にかかる自己株式数を控除した数とし、また、当社普通株式にかかる自己株式の処分を行う場合には、「新規発行株式数」を「処分する自己株式数」に読み替えるものとする。 さらに、上記のほか、本新株予約権の割当日後、当社が他社と合併する場合、会社分割を行う場合、その他これらの場合に準じて行使価額の調整を必要とする場合には、当社は、合理的な範囲で適切に行使価額の調整を行うことができるものとする。
(6) 新株予約権の権利行使期間	本新株予約権を行使することができる期間（以下、「行使期間」という。）は、2028 年2月1日から2036 年10月25日までとする。
(7) 新株予約権の行使の条件	① 本新株予約権の割当てを受けた者（以下、「新株予約権者」という。）は、2027 年10月期から2033 年10月期までのいずれかの事業年度（以下、「判定期間」という。）において、以下(a)乃至(c)に定める条件を満たした場合にのみ、それぞれに定める割合を上限として本新株予約権を行使することができる。なお、(a)乃至(c)の条件は判定期間における連

	結損益計算書（連結損益計算書を作成していない場合には損益計算書、以下同様。）における営業利益が黒字（0 円以上）であることを前提とする。 また、株価終値平均値とは「金融商品取引所における当社普通株式の普通取引の連続した 20 取引日の終値平均値」を指すものとする。 (a) 判定期間において連結損益計算書に記載された営業収益が 40 億円を超過し、かつ、本新株予約権の割当日から行使期間の満了日までの期間において株価終値平均値が 1,000 円を一度でも超過した場合：割当てられた本新株予約権の 30%まで行使可能（端数については切り捨てる。本号における行使可能な本新株予約権の数を算定するにあたり、以下同様とする。） (b) 判定期間において連結損益計算書に記載された営業収益が 63 億円を超過し、かつ、本新株予約権の割当日から行使期間の満了日までの期間において株価終値平均値が 1,500 円を一度でも超過した場合：割当てられた本新株予約権の 30%まで行使可能 (c) 判定期間において連結損益計算書に記載された営業収益が 90 億円を超過し、かつ、本新株予約権の割当日から行使期間の満了日までの期間において株価終値平均値が 2,500 円を一度でも超過した場合：割当てられた本新株予約権の 40%まで行使可能 本新株予約権の割当日後、当社が株式分割または株式併合を行う場合、上記に定める目標となる株価水準についても、当該株式分割または株式併合の割合に応じて適切に調整されるものとする。 上記における営業収益及び営業利益の判定に際しては、当社が提出する有価証券報告書に記載された連結損益計算書における数値を参照するものとする。なお、決算期変更や適用される会計基準の変更等により参照すべき指標の概念に重要な変更があった場合や、当社の業績に多大な影響を及ぼす企業買収等の事象が発生した場合など、当該数値で判定を行うことが適切ではないと当社取締役会が判断した場合には、当社は当該影響を排除すべく合理的な範囲内で適切な調整を行うことができる。 ② 新株予約権者は、新株予約権の権利行使時において、当社または当社関係会社の取締役、監査役または従業員であることを要する。ただし、任期満了による退任、定年退職、その他正当な理由があると取締役会が認めた場合は、この限りではない。 ③ 新株予約権者の相続人による本新株予約権の行使は認めない。 ④ 本新株予約権の行使によって、当社の発行済株式総数が当該時点における発行可能株式総数を超過することとなるときは、当該本新株予約権の行使を行うことはできない。 ⑤ 各本新株予約権 1 個未満の行使を行うことはできない。
(8) 新株予約権の行使により株式を発行する場合に増加する資本金及び資本準備金の額	① 本新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金の額は、会社計算規則第 17 条第 1 項に従い算出される資本金等増加限度額の 2 分の 1 の金額とする。計算の結果 1 円未満の端数が生じたときは、その端数を切り上げるものとする。 ② 本新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本準備金の額は、上記①記載の資本金等増加限度額から、上記①に定める増加する資本金の額を減じた額とする。
(9) 新株予約権の	① 当社が消滅会社となる合併契約、当社が分割会社となる会社分割につ

取得の事由及び 取得条件	いての分割契約もしくは分割計画、または当社が完全子会社となる株式交換契約もしくは株式移転計画について株主総会の承認（株主総会の承認を要しない場合には取締役会決議）がなされた場合は、当社は、当社取締役会が別途定める日の到来をもって、本新株予約権の全部を無償で取得することができる。 ② 新株予約権者が権利行使をする前に、上記（７）に定める規定により本新株予約権の行使ができなくなった場合は、当社は新株予約権を無償で取得することができる。 ③ 全部取得条項付種類株式を用いたスクイーズアウトにおいて、当該種類株式の全部取得決議がなされた場合、またはその取得日が到来した場合は、当社は本新株予約権の全部を無償で取得することができる。 ④ 特別支配株主（議決権の90%以上を保有する株主）から株式等売渡請求がなされ、これについて当社取締役会が承認した場合は、当社は本新株予約権の全部を無償で取得することができる。
(10) 新株予約権の 譲渡制限	譲渡による本新株予約権の取得については、当社取締役会の決議による承認を要するものとする。
(11) 組織再編行為時に おける新株予約権の 取扱い	当社が、合併（当社が合併により消滅する場合に限る。）、吸収分割、新設分割、株式交換または株式移転（以上を総称して以下、「組織再編行為」という。）を行う場合において、組織再編行為の効力発生日に新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号イからホまでに掲げる株式会社（以下、「再編対象会社」という。）の新株予約権を以下の条件に基づきそれぞれ交付することとする。ただし、以下の条件に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約または株式移転計画において定めた場合に限るものとする。 ① 交付する再編対象会社の新株予約権の数 新株予約権者が保有する新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付する。 ② 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の種類 再編対象会社の普通株式とする。 ③ 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数 組織再編行為の条件を勘案のうえ、上記（２）に準じて決定する。 ④ 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額 交付される各新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、組織再編行為の条件等を勘案のうえ、上記（５）で定められる行使価額を調整して得られる再編後行使価額に、上記（11）③に従って決定される当該新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数を乗じた額とする。 ⑤ 新株予約権を行使することができる期間 上記（６）に定める行使期間の初日と組織再編行為の効力発生日のうち、いずれか遅い日から上記（６）に定める行使期間の末日までとする。 ⑥ 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項 上記（８）に準じて決定する。 ⑦ 譲渡による新株予約権の取得の制限 譲渡による取得の制限については、再編対象会社の取締役会の決議による承認を要するものとする。 ⑧ その他新株予約権の行使の条件

	上記（７）に準じて決定する。 ⑨ 新株予約権の取得事由及び条件 上記（９）に準じて決定する。 ⑩ その他の条件については、再編対象会社の条件に準じて決定する。
(12) 新株予約権の 割 当 日	2026 年 10 月 26 日
(13) 新株予約権証券の 発行に関する事項	当社は、本新株予約権にかかる新株予約権証券を発行しないものとする。
(14) 新株予約権の 払 込 期 日	2026 年 10 月 26 日

以 上